



デオ録画しており、調査官にも確認してもらっています。ビデオ映像でも父子関係が良好だということが分かります。

以上のことから、次女は、父親や長女と会って、昔のように遊びたいと本心では願っていると言えます。

2、離婚時、元妻を信用して子供達を預けたのですが、一年も経たずに長女に対する姉妹差別や育児放棄などが発覚しました。しかし、元妻は長女に対する姉妹差別行為などを認めず、長女に辛い思いをさせた事実から逃げ、長女の気持ちと向き合おうともせず、母親としての責任を今も放棄しています。

元妻から長女に送られてきたメールは、母親が、我が子に送るメールとはとても思えない文面であり、長女に『会いたい』などの言葉は無く、姉妹の面会交流の約束は度々ドタキャンされ、7月に次女が父親と会ったことについて、まるで長女が悪いかのような、長女を責める内容が送られてきました。このようなメールを長女に送ってくることは信じられませんし、親としても理解できません。

これから、次女も小学2年生になり、3年生、4年生と成長していきます。反抗期や思春期になり、母親の言うことを聞かなくなります。そして今度は次女が長女と同じ目にあわせられる危険性が出てくると思います。思い通りにならない我が子を殺して親が自殺するような事件も多く、父親として次女がとても心配です。長女も次女のことを心配しております。

元妻が長女に対して、電話やメールで積極的に関わろうとしない今の状況は、「長女を見捨て、次女だけ可愛がる。」としか思えませんし、長女と次女を同じように愛せない元妻のことは親として全く信用できません。

3、今後の生活について、現在、長女が6年生、次女が1年生で、まだまだこれからお金がかかります。当方はネット販売会社を10年以上運営しており、2016年4月の熊本地震で大損害を受けましたが、ようやく地震前の売り上げが目指せるくらいに

回復してきて、年齢も37歳と働き盛りです。

比べて、元妻に定職はなく、経済力は実家の両親に依存してるのが現状です。また、大黒柱の両親は70歳前後と高齢で、身体の不調や病気なども考えられ、現在の収入を今後5年10年と継続するのは難しいです。両親2人が、元妻と次女を養っている今の生活は、いつ破綻してもおかしくないと言えます。

当方の生活基盤においては、会社経営が基本ですが、もしも病気や事故などで何かがあった場合は、弟夫婦か御船町の親戚が子供達の面倒を見てくれる約束になっています。弟夫婦も御船町の親戚も子供がおらず収入がありますので、万が一の場合は「成人するまで」ということをお願いしております。

これからまだ5年10年と子供達を育てていく上で、経済力は必要です。教育を受けるにも、経験を積ませるにも、夢も持たせるにも。当方は、子供達の将来を見据えてあらゆる方法で経済的基盤を固めております。

4、これまでの経緯で、次女が、当方と長女に会いたがっているのは明らかであり、昔のように一緒に遊びたい気持ちがあるのも間違いありません。しかし、元妻に遠慮してその本音を言えないだろうということが推察できます。7月に、当方と次女が会っていることを知った元妻が、次女の気持ちを無視して、無理やり「会いたくない」と言わせていることも推察できます。

ですが、人間とは病気や事故でいつ亡くなるか分かりません。地震や天災、テロに北朝鮮のミサイルなど、いつどこで何があるか。親が亡くなってからでは抱っこすることも、話しかけることも、笑顔で笑い合うこともできません。

当方と長女は、早急に次女との面会交流を希望します。昔のように宿泊の面会交流が理想的ですが、2016年9月を最後に1年以上も面会遮断をされたので、急に宿泊だと次女の気持ちが落ち着かないことも考えられます。なので、宿泊での面会交流案Aと、宿泊をしない面会交流案Bを考えましたので、この内容でよろしくお願い致します。

最後に、元妻については、長女から逃げ続けるのではなく、長女と真摯に向き合い、これまでの自身の言動を省みて、長女と誠実に話し合い、長女の気持ちを受け止めることが母親としての責任であり務めだと考えております。